

実施要項・調査票

平成 29 年度愛媛県社会教育実態調査(指定テーマ調査)実施要項

愛媛県教育委員会生涯学習課

1 テーマと調査の目的

- (1) テーマ 放課後や休日等の子どもの過ごし方
- (2) 調査の目的

本県では、社会教育の推進を図るため、平成 26 年度から、愛媛県社会教育委員会議による指定テーマについて実態調査を行っている。本年度は、家庭や地域における放課後や休日等の子どもの過ごし方についてのテーマ設定を受け、その実態や意識を明らかにし、地域による青少年の健全育成や子どもの居場所づくりの推進・改善に役立つ資料を供することを目的とし、調査を実施する。

なお、調査結果は、第 2 回愛媛県社会教育委員会議において報告するとともに、県教育委員会HP上で公表する。

2 調査の内容

県内児童生徒を対象にアンケート調査を実施し、実態や意識を把握するとともに、地域性や家族構成、通学方法等の環境をはじめ生活習慣、地域との関わりとの関係について分析(参考:別紙「調査の主眼」)する。

(1) 対象(調査数)

- 調査票 1 → 小 5 児童 (750 人) ※各教育事務所管内抽出 (250 人×3 管内)
- 調査票 2 → 中 2 生徒 (750 人) ※各教育事務所管内抽出 (250 人×3 管内)
- ※調査票 1、2 のサンプル数は、学級の児童・生徒数により増減がある。

対象	調査方法	抽出方法 (基準)	サンプル数 (予定)	教育事務所別(学校数は原則とする)		
				東予	中予	南予
小学生 (5年生)	調査票1	都市部	300	110(2校以上)	105(2校以上)	85(2校以上)
		住宅部	300	100(2校以上)	100(2校以上)	100(2校以上)
		小集落	150	40(2校以上)	45(2校以上)	65(2校以上)
		合計	750	250	250	250
中学生 (2年生)	調査票2	都市部	300	110(2校以上)	105(2校以上)	85(2校以上)
		住宅部	300	100(2校以上)	100(2校以上)	100(2校以上)
		小集落	150	40(2校以上)	45(2校以上)	65(2校以上)
		合計	750	250	250	250
各教育事務所ごとの合計				500	500	500
総 計				1,500		

(2) スケジュール

時期	内 容		
	学校(調査実施校)	各教育事務所	調査係
10月上旬まで			計画・調査票等作成 連絡調整
10月下旬まで	調査受諾 調査票受取	調査実施先へ依頼 調査票配付	依頼文・調査票発送 (教育事務所・市町教委) (調査票→各教育事務所)
11月上旬～中旬	実施		
11月中旬	実施済調査票提出 (各教育事務所へ)	調査票の回収及び集計	
11月下旬		調査票の集計表提出	調査票の集計取りまとめ
12月			集計・分析
12月下旬まで			報告書作成
1月下旬～2月上旬			社会教育委員会議で報告
3月上旬まで			HP掲載

(3) 各調査票構成・内容について

		調査票 1		調査票 2		
対象		児童（小5）		生徒（中2）		
配付数(予定)		750（予定）		750（予定）		
回答者のこと	問 1	性別				
	問 2	同居の家族の構成と人数				
	問 3	起床時刻				
	問 4	就寝時刻				
	問 5	主な通学方法				
	問 6	通学所要時間				
	問 7	朝ごはんの頻度				
ふだん考えていることや	問 8 (1)	充実感				
	問 8 (2)	自己肯定感				
	問 8 (3)	将来への希望				
	問 8 (4)	地域への愛着				
	問 8 (5)	地域の活動への参加意欲				
	問 8 (6)	社会貢献				
放課後や休日（土・日曜日、祝日）の過ごし方	問 9	放課後の自宅での活動				
	問10	放課後によく出かけるところ				
	問11	放課後に学校に行く目的				
	問12	休日の自宅での活動				
	問13	休日によく出かけるところ				
	問14	休日に学校に行く目的				
	問15	放課後や休日にいっしょに過ごす人				
	問16	放課後や休日に友達と遊ぶ頻度				
	問17(1)	放課後や休日に人勢の友達と遊ぶ頻度				
	問17(2)	放課後や休日に友達2～3人で遊ぶ頻度				
	問17(3)	放課後や休日に上級生や下級生と遊ぶ頻度				
	問18	放課後や休日の家の手伝いの頻度				
	問19(1)	放課後や休日の家の手伝いにおける主体性				
	問19(2)	放課後や休日の家の手伝いの内容				
	問20(1)	放課後の家庭学習時間				
	問20(2)	休日の家庭学習時間				
	問21	放課後や休日の読書の冊数（1か月）				
			問22	部活動への参加状況		
		問22	放課後や休日の学習塾への通いの有無		問23	児童と同じ、ただし問番号は一つずつ繰り下げる。
		問23	放課後や休日の学習塾の頻度		問24	
		問24	放課後や休日の学習塾の内容		問25	
	問25	放課後や休日の習い事への通いの有無		問26		
	問26	放課後や休日の習い事の頻度		問27		
	問27	放課後や休日の習い事の内容		問28		
地域との関わり	問28	地域の人の活動への協力の認知		問29		
	問29	地域の活動への参加の程度		問30		
	問30	参加した地域の活動の内容		問31		
	問31	地域の活動へ参加しない理由		問32		

※児童生徒の生活圏域ごとの認識の差異を補足説明するため、別紙「調査ガイド」を付すこととする。

調査の主眼

*当調査における「放課後等」とは、平日の学校の授業の終わった後から寝るまでの間、及び休日（土・日曜日、祝日）とする。

<地域性や通学環境と放課後等の過ごし方の関係>

仮説 1 東中南予やその中でも都市部、住宅部、小集落といった地域性、あるいは、通学方法、通学所要時間等の通学環境により、放課後等の過ごし方に違い(特徴)が見られるのではないか。

⇒ (提言案) 違い(特徴)が認められた場合には、本県子育て世代への参考情報として、地域別の過ごし方や特徴についても整理して紹介する。

対応方策① 調査の依頼先(小中学校)を、昨年度の調査(小学5年生、中学2年生各750人、計1,500人)に準じて、①東中南予別に、それぞれ②都市部、住宅部、小集落ごとに、分析が可能となるよう設定する。

調査対象数 小5の場合(中2も同数) 単位:人

	都市部	住宅部	小集落	合計
東予	110	100	40	250
中予	105	100	45	250
南予	85	100	65	250
合計	300	300	150	750

対応方策② 全般での設問に、性別、家族、起床時刻、就寝時刻及び朝ごはんの頻度に加えて、通学方法(問5)、通学時間(問6)を設け、クロス集計を行う。

- 問1 性別
- 問2 同居の家族の構成と人数
- 問3 起床時刻
- 問4 就寝時刻
- 問5 主な通学方法 徒歩、スクールバス、路線バス、自転車、他
- 問6 通学所要時間 10分刻みで設問(10分位~1時間位かそれ以上)
- 問7 朝ごはんの頻度

対応方策③ 放課後等の過ごし方は、全体像と注目点を押さえる。

- | | | | |
|-----|--------------|--------|----------------|
| 全体像 | 何をしているのか | 問9、12 | 自宅での活動 |
| | どこでしているのか | 問10、13 | よく出かけるところ |
| | 誰としているのか | 問15 | いっしょにするのは |
| 注目点 | 学校での活動 | 問11、14 | 児童クラブや部活動等 |
| | 友達との遊び | 問16、17 | 相手の状況(人数と学年相違) |
| | 家の手伝い | 問18、19 | 手伝いの頻度と内容 |
| | 家庭学習の時間 | 問20 | 家庭学習時間 |
| | 読書の時間 | 問21 | 読書の冊数 |
| | *部活動(中学2年のみ) | 問22 | (中2用は後の問番号繰下げ) |
| | 学習塾 | 問22-24 | 学習塾の頻度と内容 |
| | 習い事 | 問25-27 | 習い事の頻度と内容 |

<主体的な放課後の過ごし方の状況把握>

仮説2 子どもたちは、放課後等を主体的に過ごしているのではないか。

⇒ (提言案) 「生きる力」の視点から、自己肯定感の結果と併せて、主体性の状況について分析し、提言する。

対応方策④ 自己肯定感の設問(問8)を設ける。設問では昨年度の5項目のほかに、地域の活動参加での主体性を把握する設問を追加する。

対応方策⑤ 家の手伝いについて、自分から進んで行っているものや、まかされている手伝いの有無や内容を設問(問19)

<放課後等の活動範囲やいっしょに過ごす相手の状況>

仮説3 子どもたちは、自宅以外にも、塾や習い事を含めて広範囲で活動しているのではないか(多忙化)。その一方で、近所や屋外で遊ぶ機会が減ったり、遊ぶ友達の数や相手(同学年か異学年)も変化したりしてきているのではないか。

⇒ (提言案) 活動の広範囲化や友達との遊びの面から捉える。

対応方策⑥ 放課後等に行くところを、6区分10項目(除く:その他)の選択肢を設け設問(問10、問13)

- ・学校 1
- ・他者の家 2: 友達の家 親戚・近所の家
- ・屋外 2: 公園・広場 近くの山・川・海
- ・公共施設 2: 家の近くの施設 まちの中心にある施設
- ・商業施設 1: ショッピングセンター、スーパー、コンビニ
- ・塾・習い事 2: 学習塾 習い事の教室

対応方策⑦ 放課後等に友達との遊ぶときの状況(大勢ないし少人数で遊ぶ頻度、異学年と遊ぶ頻度)を設問(問17)

<基本的な生活習慣と放課後等の過ごし方の関係>

仮説4 基本的な生活習慣のできている子どもは、放課後等も主体的に過ごしているのではないか。

⇒ (提言案) 早寝早起き、朝ごはん等、基本的な生活習慣の大切さを提言。

対応方策⑧ 対応方策②(問3、4、7)と対応方策④、⑤(問8、19)をクロス集計

<地域との関わりと放課後等との過ごし方の関係>

仮説5 地域の人による見守りや学校支援活動は、子どもたちのほとんどに認知されているのではないか。また、地域の活動によく参加している子どもたちは、放課後等も主体的に過ごしているのではないか。

⇒ (提言案) 子どもたちにとって地域の活動の大切さと併せて、地域と学校の連携協働の大切さも提言。

対応方策⑨ 地域との関わりについての設問(問27~30)を設定

問28 地域による見守り活動や学校支援活動の認知度

問29 地域の活動への参加の程度

問30 参加しないし参加意向のある地域の活動

問31 参加しない理由

対応方策④、⑤(問8、19)とのクロス集計